

工事の手順

工事手順は本物件の工事になって実例をあげたものです

① 基礎工事・上棟

■ 基礎工事 配筋検査・・・建物の重さに耐える基礎づくりをします。



プランを見ながら基礎の位置を確認します。



水廻りのパイプが設置されます
排水管（汚水・雑排水）、給水管、給湯管、ガス管の位置を確認します。



基礎の寸法から鉄筋の高さ・鉄筋径を確認します。

基礎のコンクリートを打設する前に配筋検査（検査1回目）を受けます。

※住宅瑕疵担保履行法の施行により、平成21年10月1日以降に建物完成引渡し予定のものは必ず検査を受けることになります。

■ 上棟・・・基礎の上にいよいよ建物の骨組みがつけられます。



土台に柱が差し込まれ、1階の柱が立ちました。続けて、2階の梁（胴差し・床梁）が取り付けられました。



床（プラットフォーム）をつくってから2階の柱を立て、柱の上に小屋梁・妻梁が差し込まれます。



屋根の棟が立ち上がりました。たいていは図面で見ると建物が大きく感じられます。ここで住まいの内外の大きさが実感できます。

② 屋根工事、軸組み工事

■ 屋根工事・・・雨漏りしないようにしっかり防水して屋根をつくります。



屋根の合板が張られ、屋根に材料が運ばれて、いよいよ屋根工事が始まります。



建物玄関上部には、下屋根がつくられています。

下屋根部分の屋根工事の完成写真です。屋根材は、グレーの金属板と平瓦の2種類を使ったやっこ葺きという葺き方です。

同時期にこんな工事も行われます

透湿防水シート施工



建物の周りに透湿防水シートが貼られました。外観のポリウムがはっきりとわかります。外装が覆われたので、内装の工事（内装下地、配管配線）が同時進行でできるようになります。

■ 軸組み工事 軸組み検査・・・地震や風に耐える構造づくりをする大事な工事です。



吹抜け空間には、足場板に合板を載せて足場をつくって工事します。



吹抜け空間の2階の足場部分です。



筋交いなどを入れた耐力壁となるところは、柱を引抜く力がかかるので、適切な構造用金物が取り付けられます。

柱間に斜め材（筋交い）が入られ、接合部は構造用金物でき緊結されます。

ボードで壁をふさぐ前に、軸組み検査（検査2回目）を受けます。

※住宅瑕疵担保履行法の施行により、平成21年10月1日以降に建物完成引渡し予定のものは必ず検査を受けることになります。



③ 外壁工事、内装工事

■ 外壁工事・・・建物の外装の下地仕上げをします。



写真右上の外壁部分が、まだサイディングが張られていない状態の写真です。壁の中はこうなっているんです。

1階の玄関ドア周りはタイル張りなのでモルタル下地がされています。



2階外壁の窯業系サイディング張りは縦張りパネルなので、横方向に通気胴縁が取り付けられます。横方向の太い胴縁は付け梁を取り付ける下地となります。

1階外壁は板張り部分は弁柄色に塗装されました。



玄関廻りの外壁タイルが張られ、付け柱・付け梁がグレーに塗装されて外壁が仕上がりました。



東南側の外壁にも付け柱・付け梁が施され外壁の仕上がりました。

■ 内装工事・・・建物の内装の下地仕上げをします。



内装壁には間柱や胴縁材を、天井には野縁・野縁受け材で縦横に骨組みをつくります。

床は仕上げのフロア合板を張って、傷がつかないように養生のためのベニアが貼られます。



壁や天井に断熱材を入れます。断熱材の室内側には防湿気密シートが貼られていますので、取り付けのときに断熱材を押し込みすぎると、室内の湿気が壁内に侵入してしまいますので適切な施工を心がけます。



壁や天井にボードが張られます。仕上げのクロスをはる準備としてボードの継ぎ目処理をします。



吹き抜け空間の壁と天井が仕上がりました。

④ 設備工事・外構工事

■ 設備工事・・・設備の配管配線がセットされ、住宅設備機器が据えられます。



天井部分に換気設備のフレキシブルダクトが設置されました。



2階トイレの排水たて管の施工をします。



1階食品庫の上部壁に分電盤が取り付けられるため、配線が数多く集められています。



住宅設備機器が取り付けられました。



■ 外構工事・・・駐車場の土間コンクリート、建物の外廻りの工事がはじまります。



玄関ポーチ部分は、砂利を敷き、コンクリートを打設し金ごてで仕上げます。



建物前面の植栽スペースは、今回は予算の関係で縁石と土をいれて完了です。



駐車場の床は鉄ワイヤーメッシュを敷き、コンクリート金ごて押さえで仕上げます。



駐車場のコンクリート床が仕上がりました。